



放課後等デイサービス 生活介護事業

ふれあい広場・支えあいの会 通信

特定非営利活動法人

元気福祉就労支援ボランティア

220-0073横浜市西区岡野2-3-30 TEL:045-320-0732

Email: hureaihiroba0901@gmail.com

たまぴよより その3

人工呼吸器が当たり前になる時代をめざして

——正輝さんは現在も育休中ですね。最近では疾患や障がいのある子を育てる家族の向けの情報サイトやアプリの開発をする「ファミケア」で活動しているとか。

正輝 はい。実は一度、育休から職場復帰して1カ月働いたのですが、妻が体調を崩してしまって、仕事をしながら1人で息子のケアや家事、妻のサポートを全部をやるのは難しく、また育休を延長してもらいました。これからどうやって過ごすか、働き方に限らず生き方を模索しているときに、たまたま「ファミケア」を立ち上げた直後の発起人の鈴木と出会い、すぐに意気投合し一緒に活動することにしました。大学卒業以来、インターネットで新しい価値を生み出す仕事をずっとしてきました。「疾患や障がいのある子の親」という立場に思いもよらずなり、たくさんの不便や不自由があることに直面しました。これまでITの力で課題解決してきたので、次は疾患や障がいのある子どもやその家族が「楽しい！」を感じる瞬間を増やすための課題解決や価値創造をしたいと思ったんです。障がい児育児は情報に適切にアクセスできれば、日々のケアや育児に役立つアイデアやサービス、制度がたくさんあります。これからも、息子のような子どもたちやその家族のために、社会や障がい児育児の環境がよくなるように取り組んでいきたいと思っています。

——ゆりこさんも、在宅でできる仕事をできるようになったんですね。ゆりこ 息子が退院して8カ月間くらいは、息子につききりの生活を送っていました。夫から「ファミケア」のことを聞いて障がい児とその家族向けの記事執筆や、SNS運用担当として仕事をするようになりました。今は息子の日々の成長をとまうれしく感じています。筋肉の疾患なので力は弱いですが、今まででなかったおもちゃを持ち上げて遊べるようになったり、補助をつけることで寝返りが打てるようになったり、名前を呼ぶと手をあげるようになったり。少しずつですが成長する姿を見せてくれます。——

最後に、妊娠中のママや子育て中のママやパパ、そのほか多くの人に伝えたいことがありましたら教えてください。ゆりこ 医療的ケア児を育てるのは、健常児を育てるのと比べて、少しユニークなところがあります。もちろんケアも必要ですし、大変なこともあります。人によっては「つらいんだろうな」「かわいそうだな」と思う方もいるかもしれませんが、でも私たちは楽しく幸せに暮らしています。子どもを愛し、大事に育てていきたいという思いは、ほかの親御さんと何も変わりません。もしも医療的ケア児を街で見かけることがあったら、こういう家族のカタチもあるんだと、温かい目で見守っていただけると嬉しいです。そして同じように障がい児や疾患児を育てていらっしゃるご家族にお伝えしたいのは、大変なこともあるけれど、同じように大変な思いをしているご家族がいるので、どうかつながってください、ということです。障がい児や疾患児のいるご家族にお話を聞くと、「心細かった」「共感してくれる人がいなかった」という声をたくさん聞きます。

◎10月11日(金)は駅のトイレ調査の日です。話し合って京急立会川駅の調査をすることにしました。戸部駅から電車に乗ります。平沼橋のエレベーターが見えると五木田さんは小走りになられます。エレベーターのボタンを上手に押してください。立会川まで各駅停車です。立会川駅には体の大きな方でもおむつ交換できる大きなベットの備え付けがありました。名カメラマンの稲垣さんにカメラのシャッターを押していただきました。立会川の由来を調べてみました。手前の大森海岸には鈴が森という処刑場がありました。江戸から来てここで最後別れをしたそうです。「立ち合い」場ということで立会川という地名が付いたそうです。ちなみに八百屋お七(吉三郎)に会いたいために放火が火炙りの刑に処せられたのもこの鈴が森です。帰りは特急に乗りました。早いです。でも振られます。五木田さんは今日は穏やかでした。



◎10月の社会体験学習先は泉区のゆめが丘に新しく出来ましたモールのソラトスにしました。平日にも関わらずそここの利用者様がいらっしゃいました。駐車場の一、二階は満車でした。の五階に停めました。これが正解でがらがらでした。各フロアをゆっくりとウィンドウショッピングをしました。風もあり爽やかな体験ツアーが出来ました。相鉄はこのショッピングモールソラトスの周囲に1万人規模の住宅街を作るそうです。泉区が変わりますね。



◎企画部が外食体験を企画しました。サミットサイゼリアで外食です。



◎9月29日(土)多摩動物公園に行ってきました。



ライオンバスの中



◎散歩大好きです



◎10月12日(土)ガッツビートでのフードパントリー、今回は、生活介護の利用者も初めて参加してくれました。楽しかったとの事、来月もお待ちしています。一緒に開催している、いーふらん子ども食堂様と。



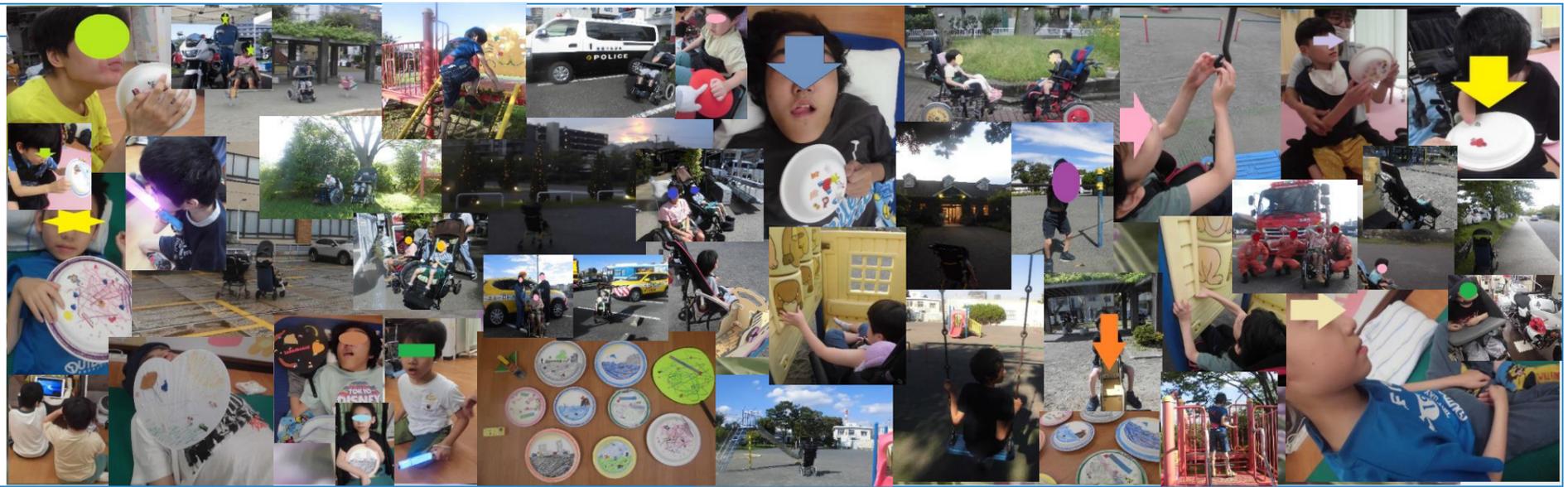
いーふらん様が行っている社内フードドライブで集まった食品をご寄付頂きました。いつもありがとうございます。



げんき 1階 (重症心身障がい児部) 5名

10月号を記載している現在では、度重なる台風と台風情報と共に夏が遠ざかり徐々に枯れ葉や日暮れ、秋らしい気温に変わって来たと感じて居りますが、薄着で元気に来所される方を見ますと、若いなと感じています。さて、今月の一階、げんきで行ってきた活動では、指先を使用した、作業療法的機能訓練から、夏休み以降、残存して居りまして、現段階でも、かなり、継続した活動内容が多く中心となっています。外出では、電車に乗車してみたり、買い物やお散歩を中心とした、公園での遊具遊び等を行いながら、学校が徐々に始めて来ていますので、そのバランスを考慮した状態と成っています。室内での遊びや訓練時では、指先を使用してもらう事、手・指・肘・肩を重点的に使用し、機能向上と関節可動域、筋力、協調運動を促進させたいと考えています。下肢の方も、歩行やバランス、立位等、室内外での使用等ありますので、ご安心頂ければと思います。今後とも、別の形で上記の機能向上には、力を入れて行きたいとは思って居ります。また、常時マッサージ師による、マッサージも行われています。また、支援員等散歩頻度の向上は、以前に増して居りまして、継続的な外出ペースが現段階では、維持されています。また、今年から、新しく入所された子達も、段々とふれあい広場、一階のげんきに馴染んで来ていますので、落ち着きを取り戻しつつ有る、今日、この頃で有るよう感じています。

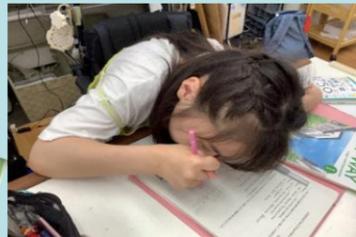
機能訓練担当 機能訓練士 吉村



音楽が大好きなMさん！



ひらがなカードでお勉強中。 素敵なカレンダーができました。



ただ今勉強中！集中してます。 トレッサでのタイムトライアルに参加



さわやか 2階 (肢体不自由・視覚障がい児部) 10名

(肢体不自由・視覚障がい児部) 10名

今月の支援からピックアップしました

実習や、体調不良でお休みされる方もいらっしゃいましたが、ふれあい広場でお友達に会うと、皆様笑顔で活動されていました。引き続き、体調の変化を見逃さないように、きめ細やかな支援を心がけたいと思います。

○フードパントリー

毎月第2土曜日にガッツビート西で開催されるフードパントリー。最初は見学のみでしたが、スタッフの皆様温かく迎えていただき仲間に入れていただいています。元気にあいさつしたり、沢山の方に話しかけていただいたり、とても良い経験をさせていただいています。

○カレンダー作り

任意で翌月のカレンダーを作り、持ち帰っています。絵画等の作品に活動風景の写真をレイアウトしています。ご家庭での話題にいただけると幸いです。



作業がとても丁寧なMさんです。



玉入れ競争、がんばって！



「こんにちは！」と元気に挨拶



涼くなった岡野公園をお散歩



レインボーフェスタでフェレット君と。

すこやか 5階 (知的・発達障がい児部) 10名

9月に入り、学校も始まりました。今までとまた、リズムの違う生活が始まりましたので、うまく接続出来たらいいなと思っています。また、夏休みは終わりましたが、夏は、まだまだ勢いをとどめる気配も見せず、残暑も長めに続くので、引き続き、暑さ対策宜しく願いいたします。さて、9月。学校では、秋の催しの準備が始まる時期ですね。体育祭や文化祭など何かと準備に追われると思います。個性の時代だといわれて久しいです。そして、その言葉は、ケアが必要な人に対して、より一層大切な意味を持つと思います。私たち大人は、時に自分を飲み込みます。個としてではなく、社会全体の中でひとつの歯車として働かなければならないからです。でも、ケアが必要な子は違います。出来ること、できないことがそれぞれ違います。できないこと、自分に持っていないもの。そこにこだわっていつまでも埋めようとしても、悔しいけれど出来ません。だとしたら、出来ること、自分が持っているもの。つまり、自分らしく生きる、という意識が私たち以上に必要になります。体育祭でうまく走れない。自分の思いをうまく伝えられない。だから、諦めるの？周りは出来るのに自分にはできない。だから、諦めるの？諦めたりやめる理由はいくらでもあります。私たち大人も愛や希望が信じられないという人がいます。でも、生きるということは、おそらく、そういうこととは別次元のことです。うまくいかないときや誰かに負けると悔しいですね。でも、本当に許せないのは、そういう壁を目の前にして、何もできない、できなかった自分自身に対してだったりしないでしょうか？しっかり誤魔化さず、自分と向き合いながら前に進めるように、利用者様だけでなく、保護者の方も含めて支援してまいりたいと思っております。

